

愛知大学中日大辞典編纂所
 所長 今泉潤太郎 様

華日辞典原稿カード返還までの経緯お問合せの件について

日中友好協会顧問 島田政雄
 1994年9月15日

標記の件につき、大変後れましたが御返事申し上げます。

7月22日付をもって御手紙並びに「中日大辞典」改訂第二版1部頂戴いたしました。

私は7月23日、急性閉塞性胆管炎の発病で、同夜東京専売病院に入院いたし50日間入院、9月9日全快退院いたしました。そのため御返事が遅れました事情御了承下さい。

御問合せの件について病床より妻に委嘱し、御送り頂いた「返還までの経緯」のコピーを中国側関係者康大川氏宛送り、返事ももらいました。両者を併せ私の関与した限りの経過を申し上げます。

- | | |
|------------|--|
| 1949年10月 | 中華人民共和国成立。 |
| 1950年1月12日 | 東京参議院会館にて日中友好協会発起人総会開き、日中友好協会準備会成立。 |
| 1950年夏 | 日中両国間に新聞、雑誌等資料交換恒常化
中国側責任者 康大川（中華人民共和国新聞総署国際新聞局日語課長兼人事科長）
日本側責任者 島田政雄（日中友好協会準備会幹事） |

（註）康大川氏と島田政雄の関係

康大川氏は戦時中、中共対日工作員として鹿地亘らの日本反戦同盟などの連絡担当、島田は日本敗戦後上海にあって中国側に留用、<改造日報>編集に当り康大川らと知己となる。（以上の経緯は島田政雄著<四十年目の証言>に詳しい）

- | | |
|--------|---|
| 1950年秋 | 日中翻訳出版懇話会成立。日本側の依頼に応じ中国より郭沫若以下50数氏の翻訳権と人民日報以下中国新聞雑誌の掲載記事翻訳権を鹿地亘、島田政雄を原権利者として譲渡を受ける。鹿地、島田は譲渡をうけた翻訳権を翻訳出版懇話会に |
|--------|---|

委託。

(註) 当時、日本は米軍占領下にあり、米軍のプレスコードにより、翻訳権のない外国文書は翻訳出版が許可されない事情にあり、この事情を島田は康大川に伝え、康大川は上司国際新聞局長喬冠華に上申、喬冠華は周恩来の指示を受け著名士全部に翻訳承諾書を書かせて康大川より島田宛送ってきたもの。

当時この貴重な承諾書を米軍担当者が島田、鹿地宅に確認に来た。

1950 年末 華日辞典カードにつき島田政雄より康大川に問い合せて調査依頼。

(註) この件については島田の記憶ははっきりしない。しかし康大川氏は明確に記憶しているとのことで、島田は鈴木擇郎氏よりの調査依頼の手紙をそえて康氏に依頼したらしい。

1950 年末～51 年春 華日辞典カード調査、島田より調査と返還促進の依頼をうけた康大川氏の動き。

康大川氏は島田の依頼を受けて、華日辞典カードの行方を馮安代？（国際新聞局秘書長、現に健在とのこと）に依頼して調べてもらった。結果鄭振鐸氏の手もとにあることが判明した。康大川氏はこの旨、喬冠華局長に報告したところしばらくして喬冠華氏から康大川氏に返事がありこの件は返送することに決まった。送還についてはこちらで適当にやるからとということ康大川氏はこの旨島田に伝えた由。（島田は 82 才という年かさぱり覚えていない）おそらく康さんからそう知らされてそれを依頼された鈴木擇郎氏に伝えたと思う。康氏の記憶によればこのことが朝日新聞に洩れて朝日新聞の 50 年末か 51 年春大きく三段ヌキの大見出しで載り、＜何でも康という人の斡旋で返されることになったとか＞その康とは範寿康のことではないかなどとデカデカ出たことを康大川氏は今でも覚えているという。

以上のようなわけで＜返還までの経緯＞に書かれている

1953 年 7 月 本間学長より…以下

1953 年 10 月 5 日 康大川人民中国日本語版編集長より…

は誤りと康大川氏は指摘しています（島田宛返書）。ことに（人民中国日本語版）ができたのは 1963 年 6 月であって、てんで間違いとの康大川氏の指摘です。

1954 年 9 月 12 日 邦人引揚げ船興安丸の乗船代表として島田が天津にゆき、天津で康大川氏よりカードを受取り、興安丸に積みこみもちかえたことは間違いありません。

以上ですが、康大川氏は北京に現在健在です。詳しいことは康氏に直接おきき下さるとよいと思います。

〔注〕 文中にある朝日新聞の記事は 2-2 a(1)参照。